

2022（令和4）年の大阪経済

—大阪経済は、緩やかな持ち直し基調が続く—

商工労働部（大阪産業経済リサーチセンター）は、府内の経済動向について四半期ごとに『おおさか経済の動き』としてとりまとめています。このたび、2022（令和4）年の年間の経済動向を『2022（令和4）年のおおさか経済の動き』として発行しました。その概要は以下のとおりです。

2022年の大阪経済は、緩やかながら持ち直しの動きが続いた。新型コロナウイルス感染症の流行に伴う行動制限の解除などにより社会経済活動が再開したことにより、需要面では、消費が緩やかな上昇傾向で推移し、外需が増加したほか、設備投資が前年並の水準で推移した。生産は、持ち直しが続いていたが、年後半に失速した。雇用は、就業者数の増加や完全失業率の改善など持ち直しの動きで推移した。企業活動は緩やかな持ち直しが続いたが、製造業よりも非製造業で改善が顕著となるなどの違いもみられた。

【目次】

要約

第1章 大阪経済は、緩やかな持ち直し基調が続く

1. 実質経済成長率は一進一退ながら、持ち直し基調が続く
2. 大阪府の景気は持ち直したが、秋以降は一服
3. 需要は一部に弱い動きがみられるものの、総じて緩やかに持ち直して推移
4. 生産は、年後半に失速
5. 雇用は持ち直しの動きで推移
6. 企業活動は緩やかな持ち直しが続くが、製造業よりも非製造業で改善傾向

第2章 2022年の経済動向

第1節 需要は一部に弱さがあるものの緩やかに持ち直している

1. 個人消費は緩やかに持ち直している
2. 住宅投資は持ち直しの動きが続いている
3. 民間設備投資は回復
4. 輸出入額は、過去最高額を更新
5. 観光需要は社会経済活動の再開に伴い、回復基調に転じる

第2節 産業活動は、生産は弱含みながら、持ち直して推移

1. 生産活動は、2年ぶりの低下
2. 雇用は持ち直しの動き
3. 消費者物価は急上昇、国内企業物価は大幅に上昇
4. 企業倒産件数は微減、負債総額は増加

第3章 2022年の企業動向

第1節 企業の業況は横ばい基調へ

1. 企業の業況は、概ね横ばい基調で推移
2. 営業利益はほぼ横ばいで推移、資金繰りは前年よりも勢いが鈍化
3. 雇用予定人員は緩やかな改善基調も、勢いを欠く

第2節 中小企業の業況は、緩やかな回復基調で推移

1. 出荷・売上高及び営業利益は、総じて緩やかな回復基調で推移
2. 業況は一進一退ながら持ち直したが、原材料価格や仕入単価の上昇が課題

主要経済指標